

ブリティッシュブラス 第51回定期演奏会

Programme

第1部/基本編成 指揮：福田 昌範

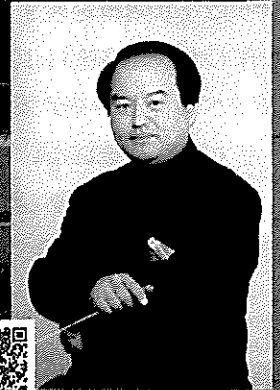
J.ウィリアムズ/リバティー・ファンファーレ

John Williams (b.1932) // Liberty Fanfare

P.グレイアム/トーチベアラ

Peter Graham (b.1958) // Torchbearer

Masanori
Fukuda



第2部/中編成 A 指揮：山本 武雄

G.ホルスト/ムーアサイド組曲

Gustav Holst (1874-1934) // A. Moorside Suite

M.アーノルド/パドストウの救命ボート

Malcolm Henry Arnold (1921-2006) // The Padstow Lifeboat

第3部/中編成 B 指揮：山本 武雄

P.スパーク/素晴らしき3つの冒険

Philip Sparke (b.1951) // Three Extraordinary Journeys

P.グレイアム/ゲールフォース

Peter Graham // Gaelforce



Takeo
Yamamoto



2020年12月6日(日) 開演 19:00 (開場 18:30)

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Programme Notes

J.ウィリアムズ／リパティエー・ファンファーレ

ジョン・ウィリアムズは、1932年にアメリカ・ニューヨーク州に生まれた。父がジャズ・パーカッショニストという音楽一家に育ったウィリアムズは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校で著名なイタリア人作曲家、映画音楽家であるマーリオ・カステルヌオーヴォ＝テデスコに師事し作曲を学ぶと、1965年頃からTVドラマの音楽を手掛けるようになり頭角を現す。映画音楽、そして協奏曲や交響曲をはじめとする現代音楽界最高の巨匠として、これまでに制作した映画音楽は100本近くになり、その名を映画音楽界で知らないものはいなくなった。

この曲はオーケストラのための作品であり、映画のテーマではないという理由だけで、ジョン・ウィリアムズのあまり知られていない作品の1つであり、「自由の女神」像、建設100周年を記念して作曲された曲である。ホルネット、トロンボーンセクションのファンファーレで幕が開かれ、鳴り響く鐘の奥からテーマが顔を出す。メロディアスなモチーフは作品全体で数回繰り返されており、壮大なスケールで展開されクライマックスを迎える。

ホルネット 3年 吉田 千恵

P.グレイアム／トーチベアラー

ピーター・グレイアム (b.1958) はスコットランド出身の作曲家。救世軍の教会金管バンドで楽長を務めている父とピアニストの母の間に生まれ、幼少期から救世軍の教会金管バンドに参加してホルネットを学び、エディンバラ大学で作曲を専攻、ロンドン大学で同じ救世軍の教会金管バンド出身の作曲家エドワード・グREGSONに師事し、現在では作曲家として吹奏楽や金管バンドなどの作品で世の中に知られるほか、サルフォード大学でも教鞭を執っている。

本曲は作曲家がイングランド出身の救世軍の牧師であるエリック・ボールに対する敬意を表す曲と書けられ、中にE.ボールが学年に名が付く伝統を持つ神学校、救世軍万国士官訓練学校の教師と務めた時に《炬火を持つ者》の学年の為に書かれた行進曲《March - Torchbearer》のTrioのテーマをメインテーマとして用いられ、曲中には何度でも使われている。曲の初めにE.ボールが書かれた名曲で有る《主の再臨(Resurgam)》中の【愛と救い】を表すテーマから始まり、続きにP.グレイアムが《光のように輝け(Shine as the Light)》と《暗闇は深くて(Candle of the Lord)》の賛美歌編曲中で使われた【暗闇の光】を表すテーマを橋渡し役として、アルトホルンのソロで彼の炬火を持つ者 (E. ボール) が炬火を持って金管バンドの未知なる世界を探索しているように《March - Torchbearer》のTrioのテーマを初登場させ、その後に様々な展開と共に《歩む旅人(The Wayfarer)》、《自由への旅(Journey Into Freedom)》、《極めの高峰(High Peak)》等のE.ボールの名作から動機を取り入れ、その展開の果てには《March - Torchbearer》のテーマを再現し、曲の終焉と向う。

バス・トロンボーン 4年 謝 慕揚

G.ホルスト／ムーアサイド組曲

グスターヴ・ホルスト (1884-1934) はイギリスのグロースターシャー州、チェルトナムにスウェーデン移民の子として生まれる。父は音楽教師、母はピアニストだった事もあり、非常に音楽的な家庭環境であった。1892年、ウィック・リッシントンでオルガニストの職に就き、1893年には王立音楽大学に入学し作曲を専攻。しかし、1894年に腕の神経炎によりピアノからトロンボーンに転向。王立音楽大学卒業後、スコットランド管弦楽団のトロンボーン奏者として活躍。1903年、トロンボーン奏者を辞め音楽教師になる。この様に様々な面で活躍してきたホルストだが、その間に多くの曲を書き続けた。中でも占星術から着想を得て書かれた、組曲「惑星」は、1914年～1916年の間に完成され、ホルストの代表曲として現在でもなお語り継がれている。

この曲はI. Scherzo (諧謔曲)・II. Nocturne (夜想曲)・III. March (行進曲) の3楽章からなっており、1928年に全英ブラスバンド選手権ファイナルのための課題曲 (テストピース) として初演された。ホルストが唯一ブラスバンド編成のために作曲したオリジナル作品である。

ユーフォニアム 1年 阿部 紗佳

M.アーノルド／パドストウの救命ボート

イギリスで生まれたマルコム・アーノルド (1921-2006) は、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団のトランペット奏者として活躍した経歴を持ち、1948年、イタリア滞在中に作曲に専念することを決める。作曲家としてはクワイ河マーチやピータールー序曲などを手掛けている。

『パドストウ』とはイギリス、コーンウォール北海岸に位置する港町である。また、パドストウにはRNLI (王立救命艇協会) という海や沿岸で救命活動する組織の救命ボートステーションが置かれており、この活動により多くの命が救われている。1965年、アーノルドは、コーンウォールのパドストウ近郊で新しい生活を送るためにロンドンを離れ、別荘での生活を始める。パドストウの救命ボートは、短期間の落ち着きと満足感、そして帰属意識を反映している。アーノルドが別荘で耳にした、彼らが出港する際に発する霧笛の様な勇敢なフレーズが頻繁に登場する。

ユーフォニアム 1年 阿部 紗佳

P.スパーク／素晴らしき3つの冒険

フィリップ・スパーク (b.1951) は、イギリスの作曲家。ロンドンで生まれ、10代の頃にピアノやヴァイオリンのレッスンを受け、王立音楽大学にてトランペット、ピアノ、作曲を学ぶ。ブラスバンドおよび吹奏楽のための作品で知られている。この曲の日本での和訳は「素晴らしき3つの冒険」だが、これはスパーク曰く誤訳であり、もっとも適切な和訳は「3つの驚異の旅」である。曲のタイトルは、フランスの小説家ジュール・ヴェルヌの小説に基づいており、曲想は以下の3楽章から成る。

第1楽章「海底2万マイル」金管の煌びやかで華やかなファンファーレから始まる。この主題は各楽章のはじめで必ず使われる。この曲は3楽章の中でも1番金管らしいサウンドが聴ける。

第2楽章「気球に乗って5週間」ユーフォニアムが短くファンファーレを奏でる。その後ホルネットがやさしく歌う第1主題があらわれる。これら主題は気球がゆっくりと空を飛んでいくような雰囲気をもっている。

第3楽章「80日間世界一周」第一楽章と同じファンファーレから始まり、ホルネットらによる速いパッセージが始まる。その後一旦景色を楽しむかのように長いフレーズがあらわれる。それはまるで世界一周の旅をするかのように。

ホルネット 2年 宇津木 清来

P.グレイアム／ゲールフォース

この楽曲はノルウェー王立海軍バンドのために書かれた作品であり、3つのアイルランド民謡を題材にしている。冒頭で取り上げる「Rocky Road to Dublin (ダブリンへのでこぼこ道)」はスリップジグという9/8拍子のアイルランド音楽の1形式である。ジグというのは3つの音の集まりであるがワルツの様なゆったりとしたリズムではなく拍の中に細かく3つに刻まれており、迫ってくるようなリズムが特徴である。中間で取り上げる曲は「The Minstrel Boy (吟遊詩人の少年)」である。アイルランドに古くから伝わる「The Moreen」という曲に同国詩人トマスムーアが詩をつけたものであり、イギリス支配に対抗するアイルランド反乱が背景に書かれた詩だと言われている。敵兵に捕まった際、詩人の少年がハーブの弦を自ら父の形見の剣で引き裂きこのハーブが敵国の歌を歌うことはないと言葉するような自国への誇りに溢れた歌詞になっている。トマスムーアの死後、詩人の彼が帰って安らかにハーブを奏でることを願う、そのために戦争は終わらねばならない。という歌詞が追加され今なお歌い継がれている曲である。そして最後に取り上げられる曲が「Tossing the Feathers (羽毛飛ばし)」である。アイルランド音楽では前述したジグの並んでよく演奏されるリールという形式である。リールは1小説の中に八部音符が8つ入る形式である。アイルランド音楽の様々な魅力が詰まった曲である。

ホルネット 2年 溝口 大輔

Members

【小編成】

Principal Cornet	荒木 優花*
Solo Cornet	澁江 ワタル 高木 美雨 居石 まどか
Soprano Cornet	河野 誉志弥
Repiano Cornet	山下 莉奈
2nd Cornet	吉田 千恵 神山 巧弥
3rd Cornet	磯野 沙弥香# 飯塚 亜実
Flugelhorn	井上 優希*
Solo Tenor Horn	檜山 沙南
1st Tenor Horn	千葉 美紅*
2nd Tenor Horn	鈴木 みのり
1st Baritone	谷田 果奈美

2nd Baritone	加藤 千聖
1st Trombone	佐野 陽歩*
2nd Trombone	山崎 有紗#
Bass Trombone	謝 慕揚
Principal Euphonium	春原 佑香*
Euphonium	上柳 創大
E♭ Bass	土谷 紗央里 渡部 陽菜
B♭ Bass	水岡 頼玖* 齊藤 徹也
Percussion	小松 幹* 佐々木 裕依 藤江 心 濱出 美咲 馬島 啓 松井 菜々子 横木 秀真

【中編成 A】

Principal Cornet	中山 亜実
Solo Cornet	錦古里 愛 藤原 くるみ 石井 華音
Soprano Cornet	水谷 樹里#
Repiano Cornet	加藤 早弥乃
2nd Cornet	藤田 雄大 浦島 柚子
3rd Cornet	丸岡 三希子 手塚 柚季
Flugelhorn	江原 春香 石垣 静流
Solo Tenor Horn	石川 芽生
1st Tenor Horn	芦川 大樹
2nd Tenor Horn	深美 朱莉
1st Baritone	高原 百合香

2nd Baritone	大島 成実
1st Trombone	山口 智代 平沼 聖天 岩井 心 三浦 健 中津 愛梨
2nd Trombone	石田 薫 櫻井 美湖 小野 航
Bass Trombone	神野 葵 長坪 海斗
Principal Euphonium	本谷 梨香
1st Euphonium	阿部 紗佳
2nd Euphonium	武田 美智
E♭ Bass	河原 唯 下田 真寛 遠藤 愛奈
B♭ Bass	岡田 侑也 高島 佳樹 長谷川 夏帆
Percussion	高山 かほ 田代 万莉子 丹 健汰郎

【中編成 B】

Principal Cornet	清宮 衛介
Solo Cornet	溝口 大輔 宇津木 清来 大津 泰 五月女 啓太
Soprano Cornet	細谷 侑生
Repiano Cornet	谷口 諒 佐々木 右京
2nd Cornet	伊吹 梓 濱田 ほむら
3rd Cornet	草野 あんず 渡辺 寛子
Flugelhorn	森 猛流
Solo Tenor Horn	垣本 真夢 芦名 まりい
1st Tenor Horn	池谷 彰恩#
2nd Tenor Horn	堀江 風雅
1st Baritone	高橋 伽苗
2nd Baritone	市村 結衣

1st Trombone	南崎 直子 窪寺 菜摘 米村 麻優 篠塚 裕太 平野 結梨香
2nd Trombone	加賀美 柚帆 高木 咲希 出田 希乃 横山 美里 佐藤 頼星
Bass Trombone	古田 夕真 林 剛潤
Principal Euphonium	石倉 雄太
1st Euphonium	佐々野 広雅
2nd Euphonium	清水 榛菜
E♭ Bass	長房 美久 鈴木 湧太 豊田 真悠子
B♭ Bass	加藤 惇 GAO XINYU 鈴木 快門
Percussion	村山 みなみ 小栗栖 未久 金正 紗也加 栃下 紗奈 眞塩 怜央奈

*…パートリーダー、#…インスペクター

企画運営責任者	福田 昌範
指導教員	海野 匡代 高田 亮 原 進 府川 雪野 古田 賢司 班目 加奈 渡邊 功
助手	土屋 莉帆

洗足学園音楽大学ブリティッシュプラス公式ページ



Facebook



Twitter